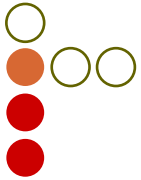
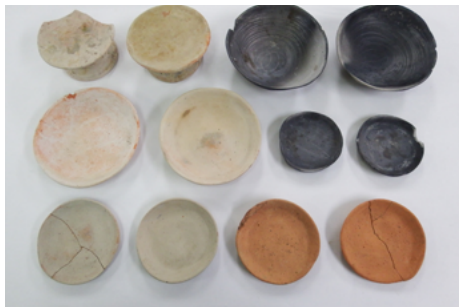
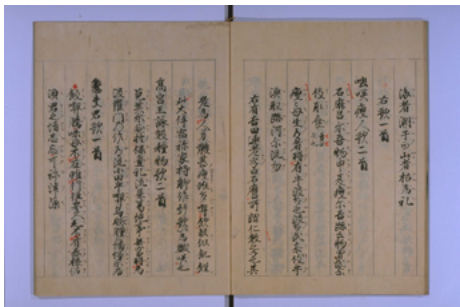


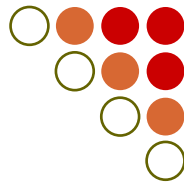
奈良女子大学
大和・紀伊半島学研究所
古代学・聖地学研究センター



Center for Research of
Ancient Culture and Sacred Place
Institute for YAMATO and Kii Peninsula Studies
Nara Women's University



要覧
2022 年度版



古代学・聖地学研究センターの目的

古代日本の中心であった奈良に立地するという本学の特色を活かし、東アジアという広い視野の中で、学際的に古代を研究することを目的として開設されました。歴史学・考古学・地理学・言語学・文学・美術史学、それに理系も含めた幅広い分野の研究者が、奈良と紀伊半島を中軸とする、古代から近世に至る日本の実態とその特色を、学際的に活発に研究しています。その活動は国内にとどまらず、広く海外の研究機関・研究者とも連携して進めているところです。

沿革

古代学・聖地学研究センターの前身である古代学学術研究センターは、古代日本の中心であった奈良に立地するという本学の特色を活かし、東アジアという広い視野の中で、日本古代の歴史・文学・言語などを学際的に研究することを目的として、2005（平成 17）年 6 月 24 日に設置されました。それは、文部科学省の 21 世紀 COE プログラム(革新的な学術分野)に、本学の申請した「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」が採択され、5 年間にわたる拠点活動を開始した翌年にあたります。これ以後、同拠点と連携してセンターは活動しました。そして 2009（平成 21）年 3 月末で COE プログラムの拠点活動が幕を閉じたことを受け、そこでの活動を古代学学術研究センターが引き継ぎました。

COE 拠点活動の成果を継承発展させるために、古代学学術研究センターでは、古代日本の特色を明らかにすべく、歴史学・考古学・地理学・言語学・文学・美術史学などの幅広い分野の研究者が学際的に研究活動を展開しました。さらに、理系のプロテオミクス研究分野の専門家も参加し、文化財や遺物に含まれるタンパク質などの自然科学的分析を行って、その成果を古代の環境や動物利用の様相、古代技術史などの解明に応用する研究を行いました。

文系の研究に関わる主な活動としては、古代都城制の特質を解明するための都城制研究集会と、主に国文学・国語学の若手研究者を対象とする若手研究者支援プログラムが挙げられます。都城制研究集会は、2018 年度第 13 回をもって終了しました。その全ての成果は『都城制研究』にてご覧いただけます。若手研究者支援プログラムは、毎夏、全国の若手研究者を主たる対象として開催され、最新の研究成果を第一線で活躍する研究者から学べる場として、現在も継続されています。報告集も毎年刊行されています。また GIS（地理情報システム）を用いた「奈良盆地歴史地理データベース」を作成し、ホームページ上で公開しました。2021 年には「万葉歌碑データベース」のスマホ版を公開し、多くの万葉ファンの方々に利用していただいています。

2018 年 3 月に新設された大和・紀伊半島学研究所の内部センター化に伴い、センターの名称を古代学・聖地学研究センターに変更、中核的視点を奈良だけではなく紀伊半島にも置き、それらをめぐる歴史的・文化的な課題を、古代から近世に至るまで包括的に研究する学として新たに聖地学を立ち上げました。2019 年以降、聖地学シンポジウムを毎年、開催し、国内外の研究者と共同して聖地学を推進しています。



奈良盆地（国土地理院から引用）



宇太水分神社 中宮

古代学・聖地学研究センターの組織



各グループのメンバー構成

古代学・聖地学分野

西谷地 晴美 西村 さとみ
鈴木 則子 藤田 盟児
神野 恵 (客員教授) 岡林 孝作 (特任教授)
大賀 克彦 (特任講師)

環境歴史科学創成分野

宮路 淳子 鈴木 則子
藤田 盟児 中澤 隆 (特任教授)
大賀 克彦 (特任講師)

GIS・情報発信分野

石崎 研二 奥村 和美

国語国文学分野

奥村 和美 大平 幸代
尾山 慎
飯田 剛彦 (客員教授)

協力研究員

衛藤 恵理香 黒田 洋子 阪口 由佳 向村 九音
穴戸 香美 鈴木 明子 土居 美幸 樋口 百合子
前川 佳代 宮崎 良美 森 由紀恵

私たちの〈いま〉の起点としての古代、私たちが常に求め続けてきた聖地を通して、人間と人間を取り巻く世界について考えていきます。

古代学・聖地学分野

〈みやこ〉からみる日本の形成と展開

本学が所在する奈良県は、後に日本と呼ばれることになる国家の政治拠点が生じた地です。その政治拠点すなわち〈みやこ〉に焦点をあて、文献史学、考古学、言語学や文学などさまざまな方法を用いて国家や社会の形成と展開の過程を研究しています。

とりわけセンターの開設前後から2018年度までは、7世紀後半以降、中国の影響のもと条坊制に則って造営された都城の変遷をめぐる、東アジアという視野から国外の研究者も交えて、設計思想と造営過程、立地環境や交通、社寺や信仰形態など多様な観点から検討する都城制研究集会を開催してきました。

同研究集会は2018年度にてひとまず終了しましたが、その成果をふまえながら、都城として造営される前後の〈みやこ〉や〈みやこ〉との関係において造営された諸地域の政治拠点などにも考察を及ぼし、研究の深化を図っています。



平城宮跡に復元された朱雀門

日本古代の国家と社会

国家や社会を構築する核となる〈みやこ〉は重要な研究対象の一つですが、人間の諸関係の歴史的展開を解明する緒は、そればかりではありません。古墳の副葬品の変化に着目し、紀伊半島周辺地域の交易や倭王権との関係の諸相を描きだそうとする研究、合議制の展開を通して天皇と貴族との関係の変化を解明しようとする研究など、さまざまなテーマで共同研究をおこなっています。

平安遷都後の奈良・大和

国政の拠点となる〈みやこ〉が生じたことは、その後の奈良・大和の歴史に少なからず影響を及ぼしました。そうした長岡京・平安京遷都後の奈良・大和をめぐる研究も、古代学の重要な課題の一つです。

廃都後、奈良は社寺を一つの核として再編されていきますが、その痕跡は、興福寺の門前町として栄え、江戸時代には奈良奉行所が設置された場所に位置する本学構内にもみることができます。奈良女子大学構内遺跡と総称している遺跡について再検討するとともに、そこから周辺へと視野を広げ、奈良・大和の様相を明らかにする研究も進めています。



南都焼討で変色した軒平瓦
(奈良女子大学構内遺跡)

人類と聖性・聖なる場

大和・紀伊半島学研究所設立に伴って古代学・聖地学研究センターが本格的に始動した2018年度からは、宗教的聖地に関わる国際シンポジウムや国内シンポジウムを毎年開催し、国内外の研究者と共同して聖地学研究を推進しています。

当センターの聖地学研究では、二つの大きな目標を掲げています。一つ目は、現生人類の歴史において聖地や聖なる場あるいは聖性はどのような意味をもっていたのか、またこれからの時代において聖地や聖なる場あるいは聖性はどのような価値をもちうるのかという、聖地学における根本的問いの追究です。これは、現生人類はなぜ宗教を必要とし続けているのかという問いとも通底する、重要な研究課題です。



熊野本宮大社旧社地
「大斎原」

大和・紀伊半島の聖地

二つ目は、大和・紀伊半島地域の聖地や聖なる場と日本列島との関係性の具体的解明です。これまでは、研究上不明な点がまだまだ多い熊野信仰や全国の熊野神社に視点を据えた研究を継続的に実施してきました。修験道の聖地なども含めた大和・紀伊半島を中核とする聖地や聖なる場の総合的解明を目指しています。

人類の営みと自然環境との関わりを、さまざまな遺跡出土資料から、考古学と自然科学の共同で具体的に明らかにしようとしています。

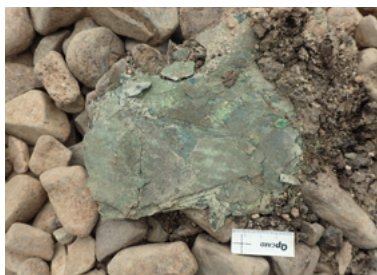
環境歴史科学創成分野

環境歴史科学創成分野とは

環境歴史科学創成分野では、古代学、考古学、考古学資料のタンパク質の解析（タンパク質考古学）などの多分野からなる学際的な共同研究を行っています。本分野の目的は、環境、歴史、科学という個別の専門的な知見を深めるとともに、視座を多角的に展開し、そこから長きにわたる人間の営みと環境との関わりを歴史的に捉えようとするところにあります。研究対象は文化財、考古遺物・遺構・遺跡、環境に関わるさまざまな試料群であり、多角的かつ多様な分析方法を駆使してそれらに含まれる素材、型式、系譜、成分、年代などの解明に取り組んでいます。そこから丹念に解きほぐした諸要素を総合し、新たな歴史像を再構築していこうとするものです。

タンパク質考古学とは

環境歴史科学創成分野で用いる専門的な手法の一つとして本分野が創成したタンパク質考古学では、MALDI 質量分析装置（島津製作所）とナノ LC-ESI イオントラップ型質量分析装置（Thermo Fisher Scientific）を用いた文化財や考古遺物に残存するタンパク質の自然科学的分析によって、古代の環境や動植物利用の様相、古代文明や技術の変遷などを解明しようとする研究を行っています。これまでに、弥生時代末～古墳時代初頭の纏向遺跡（奈良県桜井市）出土の絹製品（天蚕の絹）、古墳時代終末期の牽牛子塚古墳（奈良県明日香村）、平野塚穴山古墳（奈良県香芝市）出土の夾紵棺（家蚕の絹）、矢本横穴墓群（宮城県東松島市）出土の丸鞆の革（牛革）、奈良時代の平城京（奈良県奈良市）出土の墨（ウシ膠）などを分析し、各試料に使用されていた材料動物種を同定することで、古代における動植物利用の実態解明に迫ってきました。これらの研究を通じて蓄積した分析技術は研究対象を国外の資料にも適用し、動物骨のコラーゲンの分析によるヨルダン



チョクセム 44 号墳馬具杏葉

からアゼルバイジャンにかけての西アジアにおける先史時代の牧畜史の研究（名古屋大学博物館、東京大学総合研究博物館）、パーミヤン大仏（5 - 7 世紀のアフガニスタン）の壁画片の彩色材料分析（筑波大学）、韓国チョクセム 44 号墳（5 世紀）から出土した馬具（杏葉）および金銅製飾履に付着した革製品の分析（韓国・釜山大学）など、国内外の研究機関との共同研究も多数実施しています。

動植物利用の研究

古代の環境や動植物利用の研究では、纏向遺跡の土壌水洗・フローテーションを行うことにより、植物種子、昆虫、小型動物骨など、多数の微細遺物の抽出に成功し、当時の環境復元に重要な成果を挙げています。

他機関との関係

本分野では、さまざまな研究の面では奈良文化財研究所、奈良国立博物館、元興寺文化財研究所などの機関との連携関係も多数結んでいます。また、教育や社会貢献の場面で、県内自治体の桜井市、香芝市、奈良市、田原本町と連携して、発掘調査、資料整理、受託研究、一般の方向けの展示など多くの事業に本学学生も参加して協力させていただいています。これらの活動は、本学学生たちにとって自らが学ぶ奈良の地で、深い学びを得る機会となっているとともに、その成果を各自治体の博物館、美術館、文化財センターなどで、一般の方へ向けた展示の企画、準備、展示作業など、社会貢献の現場にも接する経験をさせていただいています。



土洗い



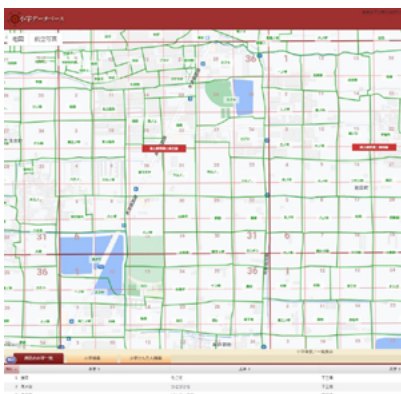
展示

GIS を用いた「奈良盆地歴史地理データベース」の構築と、それを利用した歴史景観の復原や地域構造の解明を目指しています。

GIS・情報発信分野

GIS 分野とは

様々な地図データを作成・管理・可視化・分析することができる地理情報システム Geographic Information System を用いて、過去の景観復原や多様な歴史情報の閲覧に利用可能な「奈良盆地歴史地理データベース」の制作に取り組んでいます。これまでに、「小字データベース」、「年代別土地利用データベース」、「前方後円墳データベース」、「万葉歌碑データベース」、「延喜式内社データベース」を構築し、Web 上で情報発信してきました。これらのデータベースの特徴は、Web 上でよく利用される地図のプラットフォーム「Google マップ」を背景に、GIS と同じような情報閲覧、主題図作製機能が付加されている点です。



「小字データベース」の画面

赤い線は条里界、緑の線は小字界である。奈良盆地では条里地割が残るため、面積が古代の1町（近世以降の約1.2町、約109m四方）の小字が多く見られる。また、小字名には「一ノ坪」「二ノ坪」などの条里制のちよでの呼称も多く残る。

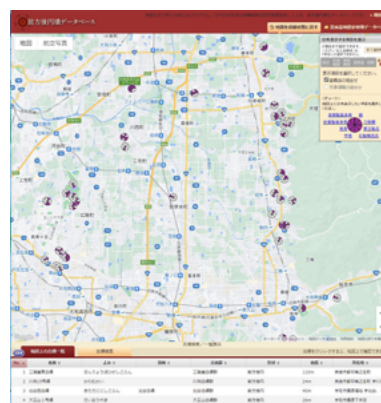
Web 上で作製可能な様々な主題図

例えば、「万葉歌碑データベース」や「延喜式内社データベース」では、地図上にプロットされたマーカーをクリックすると歌碑や神社の写真とともに由来や解説、出典などが表示されます。特に「万葉歌碑データベース」はスマホに対応したサイトがあり、実際に現地を訪れながらリアルタイムに情報検索できるように工夫しています。また、「前方後円墳データベース」では古墳の情報閲覧だけでなく、墳丘の大きさや出土品の構成によって主題図を作製することができます。主題図とは、地域や場所の属性情報を記号の大きさや模様などで区別した地図のことで、奈良盆地全体で古墳の分布と「中身」にあたる情報を俯瞰することができます。さらに、「年代別土地利用データベース」では、荘園や土地関連史料をもとに、主題図作製機能を時間軸に連動させることで、古代から中世にかけての奈良盆地における地目



「年代別土地利用データベース」の画面

土地利用の地図と時間軸が同時に表示された画面。時間軸で集計期間と表示させる時期を選択すると、地図上でその期間の土地利用が色別表示される。時間軸をマウス操作で動かすことで、土地利用の変化をアニメーションのように表現することができる。



「前方後円墳データベース」の画面

古墳の詳細情報や写真を閲覧できるとともに、記号の大きさや円グラフによる主題図を作製することができる。主題図は古墳の特性の空間的パターンを発見する手掛かりとなる。

(土地利用) の変化を坪単位で表示できるようにしています。

「奈良盆地歴史地理データベース」の活用に向けて

「奈良盆地歴史地理データベース」は、奈良の土地と歴史に広く関心を寄せる方が利用することを念頭に制作していますが、データベースを構築する際は、資料の精査や先進的な GIS 技術、丹念な現地調査など、多くの学術知を結集しています。GIS 分野を担当している教員によって、本データベースを活用した学術研究も発表しています。本データベースをご覧になって、どのような活用方法があるか、あれこれと想像していただけると幸いです。

萬葉集・古事記・日本書紀など上代文献資料を主たる対象として、国語学・国文学分野のみならず、様々な分野からの複合的な視点のもとに研究・教育を行います。

国語国文学分野

若手研究者支援プログラムの理念

「若手研究者支援プログラム」は、奈良女子大学 21 世紀 COE プログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」の言語・文学グループが推進するプログラムとして 2005 年に始まりました。本プログラムは、大学や機関の垣根を越えて、優秀な若手研究者を育成することを目的としています。特に、大学院進学を目指す学部生や大学院生そして大学院の課程を修了したいいわゆるオーバードクターを主たる対象としています。それら若手研究者の育成には、ベテランの研究者の問題意識や研究方法が共有される場が必要と考え、現在の日本古代文学・語学研究の第一線で活躍するトップレベルの先生方の協力を得て、その研究内容を若手研究者に積極的に開示・教授することとしました。これまで各大学において、所属する学生を対象にしか行われていなかった講義を、希望するすべての若手研究者に受講可能とする画期的なプログラムです。参加した若手研究者は、諸分野の専門研究者の多様な問題意識と研究方法を学ぶことにより、自己の研究テーマをさらに掘り下げ、その研究方法をブラッシュアップすることが可能になります。

第一線の研究者による多彩な講義・講演

第 1 回の「若手研究者支援プログラム」は、坂本信幸本学教授の企画により、大阪市立大学教授毛利正守氏、東京大学大学院教授神野志隆光氏、京都大学大学院教授内田賢徳氏の講義が行われ、以降、毎年、各分野を牽引する研究者による講演や講義、若手研究者による研究発表が行われています。第 5 回からは、本センターが主催者となって事業を引継ぎ、毎年夏に本学を拠点として開催しています。2022 年に至るまでに開催された本プログラムは、半数以上が報告集として活字化され、誌面を介して本プログラムを体感し学習することができるようになっていました。その内容は、萬葉集・古事記・日本書紀・日本霊異記、さらには木簡や正倉院文書、そして中国文学・中国語学にまで及び、報告集は基本的参考文献として諸論文に度々引用されるなど、第一級の研究成果としても斯界に認められています。

公開指導方式の導入

また、2012 年からは、若手の研究発表に対して、専門の近い教員による指導を、公開で行うという公開指導方式も取り入れられました。学会発表のような単発的な質疑応答ではなく、指導教員以外の研究者から懇切な指導を受ける機会を設け、それを公開の形で行うことによって、広く学問知と指導法の共有を図っています。これは、若手研究者の育成のみならず、指導する側の教育スキルの向上にもつながるものです。

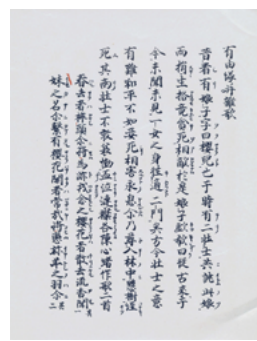
次世代への継承

2020 年にはコロナ禍にあって、いち早くオンライン形式で本プログラムを開催し、各種研究会や学会が不開催となる中、若手研究者が研鑽する場の確保に努めました。

また、2021 年 2022 年には、現在、有志が進められている萬葉集巻十六の注釈の内容を、刊行に先立って本プログラムにおいて紹介することによって、新たな研究課題の発掘に務め、訓詁注釈の方法の次世代への継承を積極的に行っています。



尼崎本萬葉集巻第十六
(京都大学貴重資料デジタルアーカイブによる)



西本願寺本萬葉集巻第十六

国内外の第一線で活躍する研究者の協力を得て、講演会・研究会・シンポジウム・講座等を開催し、その研究成果をベースに、報告集の刊行やデータベースの公開などさまざまな活動を展開しています。

センターの活動

1. 教育的・社会的活動

開講科目

「奈良」女子大学入門

奈良女子大学で学び、充実したキャンパスライフを送るために必要不可欠な内容をオムニバス形式で講義しています。学長、学部長からのメッセージのほか、本学の歴史や男女共同参画社会推進のための取組、本学教員が取り組む企業や自治体との共同研究を紹介し、新入生のキャリアプランを奈良からスタートさせます。

歴史学実習

本センター教員が分担担当する文学部専門科目（人文社会学科学科科目）として、「地域社会」が現在どのような問題に直面しているのかを、多様なフィールドワークの手法を交えながら考えてゆく授業を開講しています。

古代学・聖地学セミナーC

古代学・聖地学研究センターが実施する研究会やシンポジウムの準備に参加し、研究会やシンポジウムの報告を聞いて古代学・聖地学の最先端の研究を学び、参加記を作成することで実践的な深い学びを得ます。

古代学・聖地学特別演習C

古代や聖地に関する多様な情報を蓄積、解説、分析することによって、新たな知の領域を構築し、日本のみならず、広くアジアや世界の歴史・文化の相互理解を進めることを目指し、直近の最新の研究動向を中心に見据えながら、受講生による研究発表とそれらをもとにした討議を行います。

他機関との連携

- ・ 正倉院事務所
- ・ 奈良文化財研究所
- ・ 奈良県立橿原考古学研究所
- ・ 元興寺文化財研究所
- ・ 奈良県立万葉文化館

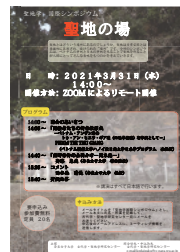
2. 研究会・シンポジウム等

聖地学シンポジウム

- シンポジウム「神々と自然と社会」（2019年3月3日）
- 国際シンポジウム「聖地の場」（2021年3月31日）
- シンポジウム「聖地の場 -フランスと日本-」（2022年3月29日）

古代学・聖地学研究センター研究会

- 2019年度 研究会「東大寺大仏殿の再建をめぐって」（2019年12月21日）
- 研究会「大夫合議制の展開と冠位十二階」（2019年6月27日）
- 2017年度 研究会「うつほ物語と平安時代像」（2017年12月16日）
- 2014年度 研究会「正倉院文書研究の新たな試み」（2014年11月8日）



- 2013年度 研究会「古代のみやこを考える」(2014年1月22日)、(2013年12月6日)、
(2013年10月7日)、(2013年7月30日)、
(2013年6月12日)、(2013年5月14日)
- 2012年度 研究会「古代都市の環境・景観 復原のための地理情報データベースの構築」(2012年11月24日)
研究会「福原の時代－宗教と和歌－」(2012年10月28日)
研究会「古代のみやこを考える」(2012年10月25日)
研究会「大和の山々と飛鳥・藤原・平城京」(2012年10月5日)
- 2011年度 研究会「古代を見なおす」(2012年1月18日)、(2011年12月12日)、(2011年11月28日)
研究会「遷都から見る日本史」(2011年8月29日)
研究会「<みやこ> 観の変遷」(2011年6月20日)
国際研究会「みやこを見直す」(2011年5月28日)
- 2010年度 研究会「平城京に住む人びと」(2011年3月25日)
研究会「古代を見直す 2」(2011年1月25日)
シンポジウム「歴代遷宮と古墳の思想」(2010年11月27日)
研究会「古代を見直す 1」(2010年10月14日)
研究会「遷都から見る日本史 2」(2010年9月29日)
研究会「都市を生きる人々」(2010年8月5日)
研究会「遷都から見る日本史 1」(2010年6月21日)

都城制研究集会

- 第13回「天下の中心としての都城」(2019年3月16日)
第12回「都城の災異と弱者」(2018年3月18日)
第11回「都城と交通」(2017年2月11日)
第10回「日本古代の都城を造る」(2015年12月19日)
第9回「古代都城のその後と古都へのまなざし」(2015年2月11日)
第8回 国際シンポジウム「東アジア古代都城の立地環境」(2013年12月15日)
第7回「古代都城と寺社」(2013年2月16日)
第6回「古代都城をめぐる信仰形態」(2012年2月5日)
第5回「都城の廃絶とその後」(2011年2月12日)
第4回「都城における坪・町と小規模宅地の検証」(2010年2月22日)
※第1～3回は21世紀COEプログラムの主催



若手研究者支援プログラム

- 第18回「萬葉集巻十六を読む II」(2022年8月27日)
第17回「萬葉集巻十六を読む」(2021年8月29日)
第16回「訓詁と注釈」(2020年8月23日)
第15回「近世萬葉学 一契沖を中心に一」(2019年8月25日～26日)
第14回「仮名文字 一万葉仮名と平仮名一」(2018年8月26日～27日)
第13回「漢字文化の受容 一手紙を学ぶ、手紙に学ぶ一」(2017年8月19日～20日)
第12回「漢字文化の受容 一東アジア文化圏からみる手紙の表現と形式一」(2016年8月21日～22日)
第11回「日本霊異記を読む」(2015年8月23日～24日)
第10回「和歌と物語」(2014年8月30日～31日)
第9回「注釈と受容 一『遊仙窟』を中心として一」(2013年8月24日～26日)
第8回「古代日本語と『古事記』」(2012年8月24日～26日)
第7回「古事記と萬葉集」(2011年8月21日～23日)
第6回「万葉集原本への道」(2010年8月28日～30日)
不定期第5回「正倉院文書を考える」・月例研究会(2010年～2017年)
※第1～4回は21世紀COEプログラムの主催



その他の研究会・シンポジウム

- 下市町×大和・紀伊半島学研究所 連携シンポジウム (2020年12月20日)
- 上代文学会 2017年度全国大会 (共催) (2017年5月20日～22日)
- 日本中国学会第68回大会 特別講演会 (後援) (2016年10月8日)
- シンポジウム「螺鈿」(2010年3月22日)
- シンポジウム「膠(にかわ)が融合する文化財と自然科学」(2010年1月23日)
- 夾紵・乾漆シンポジウム「牽牛子塚古墳から阿修羅像へ」(2009年12月12日)



3. 講演会・講座等の開催

国際学術講演会

- 李炳鎬 (韓国国立中央博物館学芸研究官)「百済寺院について—扶余と益山を中心に—」(2013年12月16日)
- 齊東方 (北京大学考古文博学院教授)「唐代—文人の生活—白居易と近年の発掘成果—」(2013年12月16日)

国際講演会

- 韓釗 (西安碑林博物館副館長)「中国古代墓誌の起源と変化」(2010年9月17日)
- 上野邦一 (古代学学術研究センター)「ハノイ・タンロン皇城遺跡の歴史的位置」(2010年2月1日)
- トン・チュン・ティン (ベトナム社会科学院考古学院院長)「(同上)」(同上)

学術講演会

- 佐藤信 (東京大学)「平城京調査研究の成果と課題—発掘調査成果の意義—」(2017年2月2日)

特別講演会

- 西藤清秀 (奈良県立橿原考古学研究所/センター特任教授)「パルミラ遺跡の過去と現在」(2016年2月15日)

講演会

- 杉山洋 (奈良文化財研究所/本学大学院客員教授)「アンコール遺跡群の修復と日本の国際貢献」(2015年6月24日)
- 栄原永遠男 (大阪市立大学名誉教授)「写経所文書中の異分子」(2014年4月21日)

奈良国立博物館夏季講座

- 第40回「玄奘三蔵とシルクロード」(2011年8月23日～25日)
- 第39回「仏像修理100年と仏像研究の現在」(2010年8月24日～26日)
- 第38回「寧波をめぐる信仰と美術」(2009年8月18日～20日)

漢訳仏典十講

- 第2期 全10回 (2005年1月14日～11月18日)
- 第1期 全10回 (2004年2月26日～12月10日)

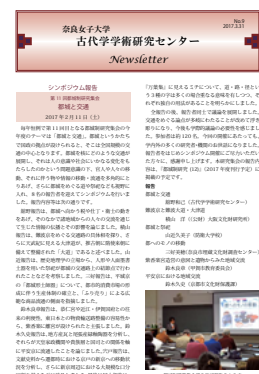
4. 出版・刊行物

古代学学術研究センターニューズレター

2010年～2017年まで年1回発行

『古代学・聖地学』1号～12号

毎年1冊刊行 (古代学・聖地学研究センターの研究紀要)
※ 第11号までは『古代学』として刊行



都城制研究

- 『都城制研究 (14) 天下の中心としての都城』(2020年4月)
『都城制研究 (13) 都城の災異と弱者』(2019年3月)
『都城制研究 (12) 都城と交通』(2018年2月)
『都城制研究 (11) 日本古代の都城を造る』(2017年3月)
『都城制研究 (10) 古代都城のその後と古都へのまなざし』(2016年3月)
『都城制研究 (9) 東アジア古代都城の立地環境』(2015年3月)
『都城制研究 (8) 古代都城と寺社』(2014年3月)
『都城制研究 (7) 古代都城をめぐる信仰形態』(2013年3月)
『都城制研究 (6) 都城の廃絶とその後』(2012年3月)
『都城制研究 (5) 都城における坪・町と小規模宅地の検証』(2011年3月)
『都城制研究 (4) 東アジアの複都制』(2010年3月)
『都城制研究 (3) 古代都城と条坊制—下三橋遺跡をめぐる—』
(21世紀COEプログラム報告集 Vol.27、2009年3月)
『都城制研究 (2) 宮中枢部の形成と展開—大極殿の成立をめぐる—』
(21世紀COEプログラム報告集 Vol.23、2009年1月)
『都城制研究 (1)』(21世紀COEプログラム報告集 Vol.16、2007年11月)



若手研究者支援プログラム報告集

- 『第17回若手研究者支援プログラム報告集 萬葉集巻十六を読む』(2022年2月)
『第15回若手研究者支援プログラム報告集 近世萬葉学—契沖を中心に—』(2020年3月)
『第14回若手研究者支援プログラム報告集 仮名文字—万葉仮名と平仮名—』(2019年3月)
『第13回若手研究者支援プログラム報告集 漢字文化の受容—手紙を学ぶ、手紙に学ぶ—』(2018年3月)
『第12回若手研究者支援プログラム報告集 漢字文化の受容—東アジア文化圏からみる手紙の表現と形式—』(2017年3月)
『若手研究者支援プログラム(四)』(奈良女子大学21世紀COEプログラム報告集 Vol.26、2009年3月)
『若手研究者支援プログラム(三)』(奈良女子大学21世紀COEプログラム報告集 Vol.20、2008年7月)
『若手研究者支援プログラム(二)』(奈良女子大学21世紀COEプログラム報告集 Vol.13、2007年8月)
『若手研究者支援プログラム(一)』(奈良女子大学21世紀COEプログラム報告集 Vol.8、2006年4月)

5. 書籍

- ・前川佳代・穴戸香美著『古典がおいしい! 平安時代のスイーツ』(かもがわ出版 2021年発行)
- ・館野和己編『日本古代のみやこを探る』(勉誠出版 2015年発行)
- ・館野和己編『古代都城のかたち』同成社古代史選書3 (同成社 2009年発行)
- ・館野和己・岩崎雅美編『古代服飾の諸相』(東方出版 2009年発行)
- ・館野和己・小路田泰直編『古代日本の構造と原理』(青木書店 2008年発行)



6. その他の報告書

- ・『古代学学術研究センター設立準備室 平成14年度研究報告書』(2003年3月)
- ・『古代学学術研究センター設立準備室 平成13年度研究報告書』(2002年3月)
- ・『奈良女子大学21世紀COEプログラム報告集』Vol.1~Vol.28 (2005年~2009年)

7. データベースの公開

奈良盆地歴史地理データベースは、平成16年度から奈良女子大学21世紀COEプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」により作成され、プログラム終了後、古代学学術研究センターへ移管され、継続してデータベースの拡充を進めています。



大学周辺図



大学構内図



発行 奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所
古代学・聖地学研究センター
編集 狩俣 順也 奥村 和美

《センター本部》

〒 630-8506 奈良市北魚屋西町 E358 室
HP : <http://www.nara-wu.ac.jp/kodai/>
E-mail : kodaigaku@cc.nara-wu.ac.jp